

トビウオ通信 (H23 第 5 号)

(本誌はホームページでもご覧いただけます。ホームページにはバックナンバーもあります。)
<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《マアジ新規加入量調査結果速報》

島根県水産技術センターでは、日本海区水産研究所、西海区水産研究所および鳥取県水産試験場と共同でマアジ幼魚の新規加入量調査を実施しましたので、今回はその結果をお知らせします。

結果の概要

- マアジ幼魚は適水温帯(16~18℃)が広がる島根県浜田沖から対馬海峡まで
の大陸棚上に集中して分布していました。
- 調査結果を基に計算した今年のマアジ幼魚の加入量指数(来遊量の多さ)
は、2003 年を 1 とすると 0.21 となり昨年(1.92)から大きく減少しました。
- 今年のマアジ 0 歳魚の漁獲量は昨年より少ないことが見込まれます。

マアジ幼魚の採集結果と分布状況

2011 年 5 月 16 日から 6 月 9 日にかけて図 1 に示す鳥取県西部から長崎県男女群島周辺の海域における合計 99 地点において、中層トロール網を用いてマアジ幼魚(2011 年生まれ)を対象とした漁獲調査を実施しました。その結果、尾叉長 2~5cm サイズを主体に合計で 4,588 尾(1 曳網当りの平均採集尾数は 46 尾)のマアジ幼魚が採集されました。

マアジ幼魚の分布状況(図 1)を見ると、今年マアジ幼魚の適水温と考えられる 16~18℃(水深 50m)の水温帯が島根県浜田沖から対馬海峡までの大陸棚上に限られ、採集されたマアジ幼魚の多くはこの海域に分布していました。一方、浜田以東の海域

では適水温帯が狭く、採集尾数もわずかでした。今年は春先から海水温が低め傾向で経過したことに加え、島根沖冷水の強い張り出しの影響を受け、このような分布になったと考えられます。

マアジ幼魚の加入量と今後の漁況

マアジ幼魚の分布量に水深 50mの水温分布を勘案して求めたマアジの加入量指数(来遊量の多さを表します)は、2003 年を 1 とすると、今年は 0.21 となり、昨年(2010 年)から大きく減少しました(図 2)。この加入量指数と境港のまき網によるマアジ 0 歳魚の漁獲尾数とはある程度対応がみられることから、今後の山陰沖におけるマアジ 0 歳魚の漁獲量は昨年を下回ると見込まれます。ただし、今年はマアジの主産卵期にあたる 3～5 月の海水温が低めであったことから、産卵状況が例年と異なることが考えられるため、今後の動向を注目する必要があります。

マアジは小型魚のうちに獲るより、一年後に成長したものを獲る方が利用価値は高まります。また、小型魚を獲りすぎてしまうと来年以降の産卵親魚の減少につながります。特に今年のようにマアジの新規加入量が少ないことが予め分かっている場合は、来年以降の親魚量を残すために計画的にマアジ 0 歳魚を獲り控える必要があるでしょう。現在、日本海西部・九州西海域ではマアジ資源等の回復を目指し、小型魚を漁獲状況に応じて獲り控えることを旨とした「日本海西部・九州西海域マアジ(マサバ・マイワシ)資源回復計画」がまき網漁業者を主体に取り組みられています。こうした取り組みが今後のマアジ資源の持続的な利用につながることを期待しています。

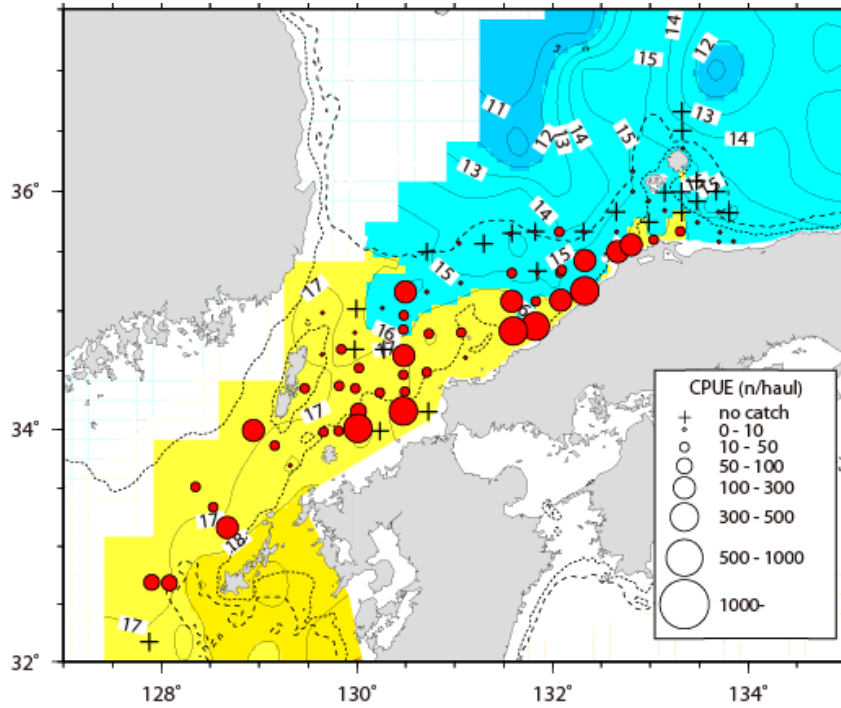


図 1 中層トロール調査における 2011 年のマアジ幼魚の採集結果 (資料: 西海区水産研究所作成)

円の大きさはマアジの採集量の多さを表し, +は採集されなかった点を表す. カラー部分は水深 50m の水温分布を表す.

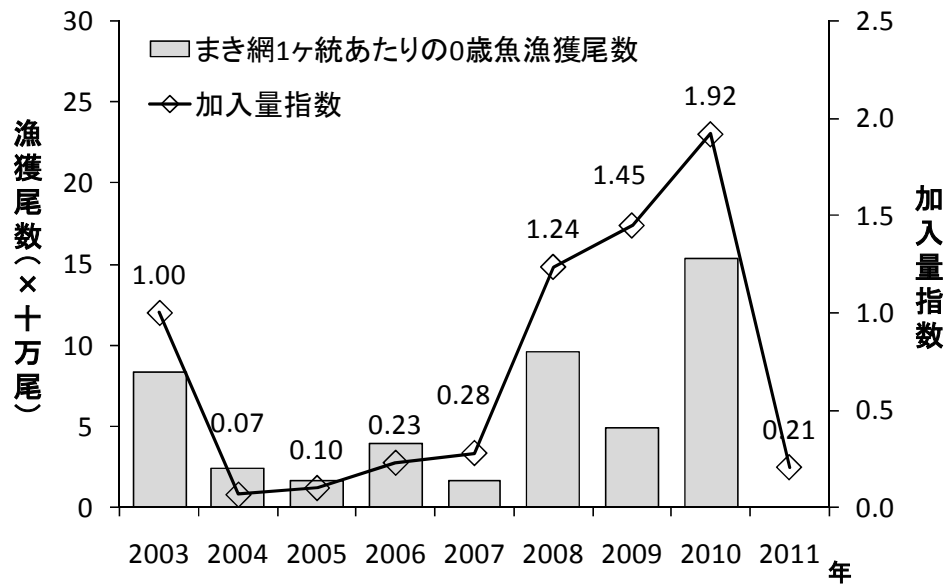


図 2 本調査から得られたマアジ幼魚の加入量指数と境港におけるまき網 1ヶ統あたりのマアジ 0 歳魚の漁獲尾数*の年動向

*6~12月に境港に水揚げされたマアジ0歳魚の尾数を水揚げしたまき網漁船の数で割ったもの